

## 『自立と感謝』

吉田中学校 小松 聖奈

この事業に参加して、私は、二つの面で自分自身の成長を感じました。

一つ目は、「自立」です。この事業は、私にとって初めての親元を離れて生活するという経験でした。一人で搭乗手続きしたり、入国審査を受けたり、一人ではとても心細いことでしたが、「より多くのことをできるようになって家族のもとに帰りたい」という一心で、大きな壁を乗り越えることが出来ました。また、ホストファミリーとの生活では、慣れない英語を使いながら家事を手伝ったり、買い物へ行ったりと日本では当たり前でできたことも「言語の壁」があるとなかなかスムーズにいかないということを実感しました。このような経験から私は、自分の力で生活する「自立」という力を養うことが出来ました。

二つ目は、「感謝」です。この事業に参加して、当たり前と言語が通じること、当たり前誰かが手を差し伸べてくれること、当たり前家族がいることのありがたみを感じました。私は、幼いころから「外国」というものに興味があり、今回この事業に参加できると聞いた時にはうれしくてたまりませんでした。しかし、実際に外国で生活してみると慣れない英語は挫折も多く、文化も違う土地に辛さも感じましたが、親切なホストファミリーや店員さんなどたくさんの優しい人たちのおかげで、コロラドでの生活を不自由なく楽しめるようになりました。また、英語を使う楽しさも実感でき、「言語が通じることへのありがたみ」「手を差し伸べてくれることへのありがたみ」を感じました。さらに、この事業に参加したことで自分にとって「家族」の存在がとても大きいということを実感しました。今回の経験で私は、たくさんの当たり前に感謝することが出来ました。周りにある「当たり前」を大切にこれからも生活していきたいです。

今回の姉妹都市派遣事業に参加できたことで私は、たくさんの面で成長することが出来ました。今回の経験を活かし、誰かに頼るばかりではなく自分の力で挑戦してみるということ大切にしていきたいと思いました。また、慣れない土地では誰もが心細いと思うので、自分がコロラドでたくさんの人に助けってもらったように、今度は私が、困っている人たちに手を差し伸べられるようになりたいと思いました。

最後に、これからは、今回の経験をいかし、日々の当たり前に感謝し、よりよい生活を送っていききたいと思います。